

## 第5回 国際政治・外交論文コンテスト

### 自由民主党 優秀賞

#### 環境先進国日本の役割 ―洞爺湖サミットを控えて―

風間 聖也

はじめに

―いま日本が果たすべき役割とは―

明年にわが国日本は北海道洞爺湖サミットを控えているが、温暖化対策が主要議題となる今回のサミットは地球温暖化防止への国際的な転換点になるものと考えられる。その国際的転換点で議長国を務める日本の役割は、極めて重要なものになるだろう。

ここで重要な役割を担う日本はというと、政府主導の下で2005年から「チーム・マイナス6%」のような国民的プロジェクトに取り組んで来ており、また世界に誇るすぐれた環境・省エネ技術やかつての公害問題を克服した経験と知恵がある。それらの点からも日本は環境で世界をリードする環境先進国であると言える。

そこで私が言いたいのは、環境で世界をリードする日本だからこそ、地球温暖化と気候変動で危機迫る地球のためにこのサミットから為すべき事や世界に対して物言える事があるはずだという事だ。この美しい地球の環境、そして私たち国民や世界の人々、とりわけ次世代の子どもたちの未来を守るためにも今こそ日本は動き出すべきである。

そこで洞爺湖サミットなどの場から環境保全への具体的な道筋を示す事を勝手ながらもサポートすべく、この論文では以下3点を環境先進国日本が果たすべき主導的役割として提案したいと思う。

#### 1、世界へ「日本」を発信する

先ず1つ目の役割は“世界へ「日本」を発信する”という役割である。

ここで言う「日本」とは、もったいないという言葉とその精神の事だ。MOTTAINAI(もったいない)とは元々食べ物を残したり、電気を点けたままにしたりといった無駄をいさめる言葉である。また現在では、環境活動の3R(Reduce…消費削減、Reuse…再使用、Recycle…再生利用)を一言で言い表す為の言葉としても用いられている。日本に昔から存在する言葉だが、元ケニア環境・天然資源副大臣で2004年のノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんが日本を訪れた際にこの日本語を知り感銘を受け、たびたび「もったいない」と口にした事から国内外で注目されるようになった。

世界へこの語を広めたいとマータイさんに言わしめるもったいないという言葉、そしてこの言葉から生まれたもったいない精神が世界中に広がれば、個人や企業レベルでそれぞれの「もったいない」が実践されその精神が活かされるようになり、過剰包装によるゴミの増加など様々な環境問題の解決が早まっていくものと考えられる。

また地球温暖化防止や環境保全など環境と経済の両立にも繋がっていく素晴らしい日本文化の美点である。新しい価値観としてもったいない精神を世界に向け発信しないのはそれこそもったいなく、もったいないを活かす環境外交を是非とも展開すべきと考える。そのためにも洞爺湖サミットという絶好の機会をもったいないの輪を広げる良いきっかけにして貰いたいと思っている。

## 2、環境の保全へ主導力を示す

2つ目の役割には“環境の保全へ主導力を示す”役割を提案しようと思う。

当たり前の事だが、地球温暖化問題で日本をはじめとした一部の国々が対策を立てればそれで良いなどという事は無い。この問題が地球全体、地球規模の問題であるからこそ、世界中の国々が真剣かつ一体となって取り組まなくてはならないのである。

特に最大排出国にも関わらず京都議定書から離脱した米国や途上国、新興国が温室効果ガス排出の自覚と責任を持って地球温暖化防止に向けた協力に応じなければ温暖化対策として不十分だ。主要排出国すべてが参加出来る枠組みを作り出す事が今必要となってきたと言える。こういった所で日本が強いイニシアチブを推進し、新たな枠組みづくりに向けた行動を起こしていくのも“環境の保全へ主導力を示す”という役割のひとつになるのではないだろうか。

また地球環境のキーマンとして環境保全へ主導力を示す為に日本が物言う国家となり、凛として世界を相手に物を言っていく事は勿論だが、ただ上の目線で理想を語っているだけでは話にならない。それに前述したような行動と何らかの実績も伴わなければならないだろう。でなければ主導力を示すどころか、逆に国際社会で「日本は口先だけの国だ」という評価をされかねない。故にG8の首脳が集まるサミットという場で物言うに相応しいと思われるだけの実績の達成が重要なのだ。

高度な環境・省エネ技術は既に実績として評価されているので良いとして、温室効果ガスの排出量が90年比で8パーセントも増加している。京都議定書が世界との約束である以上、温室効果ガス排出量の削減は必須だ。先ず自らの国が同議定書にある削減目標を最低限達成しなければ世界から相手にはされない。

洞爺湖サミットの開催は来年7月で開催までにはまだ時間がある。この首脳会議をリードするとともに日本の発言権を守る為にも今後、京都議定書で定められた「CO2マイナス6パーセント」という削減目標の達成に努め排出削減の手本の提示を図って貰いたい。

## 3、日本力で地球温暖化を救う

最後3つ目の役割には、“日本力で地球温暖化を救う”役割を提案したい。

私の言う日本力、ジャパナビリティ(Japan-ability)とは、もったいない精神などの具体的な知恵や環境・省エネ関連の技術力といったものであるが、目には見えずして存在するそれらの日本力を環境先進国かつ環境技術立国の日本が「地球はひとつ」という考えの下で途上国に提供していく公正無私の行動が必要だと私は考える。

何故かと言えば、それは京都議定書で温室効果ガスの削減義務を負っていない中国やインドといった途上国が経済成長に伴って排出量を増やしている事にある。その増加の原因には技

術の後れ、知恵の不足などが挙げられる。それら技術や知恵の不足を補う事が可能な日本力の提供は資金面での貢献とはまた少し違った国際貢献、そして地球温暖化とこの現象で大きな危機の迫る地球を救うという事にも繋がるだろう。こういった事からも途上国への技術提供は尚更必要だと言える。

また来年のサミットの開催予定地である洞爺湖にG8首脳陣が集まるのは勿論、同じく同地で気候変動問題に関する特別会合が開催される予定の為、中国やインド、韓国など約25カ国も一同に集まるだろう。この機会は日本の持つ優れた日本力を提供していく為にPRを行うスタートとするには相応であり丁度良い機会と言える。私はG8サミットという機会は千載一遇のチャンスと考える。

だからこそ、洞爺湖を環境・省エネ技術のショールームにし、この千載一遇のチャンスを活かす事を私は提案したいと思う。具体的に言うと技術力を持つ日本企業の協力を得てあらゆる省エネ技術や製品を投入し、洞爺湖周辺に世界に例を見ないエコ村を作り上げるという案だ。この案で「優れた日本の技術を活かそう」というムーブメントを起こそうと政府には是非考えて貰いたい。

終わりに

—日本政府よ、地球のために語れ—

今私が日本政府に最も求めたい事は「スピーク・フォー・アース」、地球のために語れという事である。安倍晋三前首相が著しベストセラーとなった『美しい国へ』によると、1939年、当時ナチス・ドイツ総統であったヒトラーとの融和を進めるチェンバレン首相に対し、野党を代表して質問に立った労働党のアーサー・グリーンウッド議員が首相の答弁にたじろぎを見せた事があったという。そんな時、グリーンウッドに与党保守党の議員席から「アーサー、スピーク・フォー・イングランド(英国のために語れ)」と声が飛んだ。その一声に勇気付けられたグリーンウッドは、対独開戦を政府に迫る歴史的な名演説を行ったと云われている。

これは私の勝手な憶測であるが、英国のために与党と野党という党派を超えて発した与党議員の声こそがグリーンウッドの決意と覚悟を決めさせ、歴史的な名演説を行わせるに至ったのではないだろうか。

ここでグリーンウッドの歴史的逸話を紹介したのは北海道洞爺湖サミットを来年に控える今、日本という国家に必要なものこそ地球のために語るという強い決意と覚悟であると考えたからだ。最初に述べた「スピーク・フォー・アース」という私の小さな声が政府の元に届き、議長を務める首相らが闘う政治家として来年のサミットに向けた強い決意と覚悟を決めて環境先進国たる日本の役割を果たしていく事を心から願ってやまない。

【参考文献・参考資料】

出版物

『もったいない』プラネット・リンク編、マガジンハウス

『美しい国へ』安倍晋三、文藝春秋

『日本への警告』福川伸次、PHP研究所

ウェブサイト

首相官邸、環境省、全国地球温暖化防止活動推進センター、自由民主党、日経BP社、GLOBIIS等